

# 長 蓮 寺 報

NO.12 (平成19. 12. 25)

4 5 0 年

本妙院日境聖人と言う方がおられました。

聖人は元々、天台宗だったのですが、法華宗御本山の9世日覚大僧正が小矢部の本覚寺に立ち寄られた際、大僧正の教えにひどく感銘を受け、改宗されました。そして、一念発起され富山市覚中町（現在の梅沢町）に当長蓮寺を建立されました。弘治元（1556）年3月4日の事でした。

時は戦国時代のまっただ中、ちょうど今年のNHK大河ドラマで「風林火山」が放映されていましたが、あのような混沌とした時代でした。酷く荒れた状況の中、当長蓮寺を開山された日境聖人のご苦勞は如何ばかりか、と拝察し、只只頭が下がる重いです。

ところで、当山には約400年の間、江戸時代前期より代々の住職に受け継がれ書き続けられているお寺の過去帳が現存し、そこには代々の亡くなられた方々の法名の他、大法要・主な社会情勢などが一緒に書き記されております。

特に当山の明暗を分けた出来事に、明治3年に発令された「合寺令」と言う法令がありました。江戸時代まで仏様と神様（お寺と神社）はとても密接な関係にありましたが、江戸幕府が倒れ、明治政府になると、天皇陛下を中心とした国造を勧める一環として、仏教を排他し、純粋な神道だけを擁護すると言う政策がとられました。

特に富山では、藩内の寺を一宗1カ寺とし、領内で6カ寺のみ残すと言う法令が発令され、当時県内にあった1,635余りの寺が強制的に廃寺になったのです。廃寺・合寺には兵士まで派遣し、強制的に執行されました。

当山も例外ではありませんでした。当時、当山は梅沢町（本壽寺様の隣）にありましたが、この法令で廃寺となり当時の住職は還俗せざるうえませんでした。あまりにも無慈悲な法令に8年後の明治11年にこの法令は解除されましたが、この空白の十年を元に戻すことは難しく、当山もやっとの事で明治12年に現在地の西中野本町に移転しやっど、再興されたようです。

一言で450年と言えども、この合寺令を筆頭に様々な紆余曲折があったようです。このような色々な逆境に撃ち勝ち、現在まで当山が存続出来たのは歴代の住職の努力はもとより、御檀家の方々の信仰の力のお陰であると思う次第です。

特に今回、開創450年記念事業として墓地の整備と納骨堂の建立を推し進めて参り、もう少しで完成しつつあります。今回も多くの方々からご賛同頂き、予想より多くのご協力・ご援助を頂戴致しております。本当に感謝に堪えません。

皆様にとって来る平成二十年が幸多き年になりますように。

合 掌

## 平成20年 年忌表

1 周忌	平成19年	1 7 回忌	平成 4年	3 7 回忌	昭和47年
3 回忌	平成18年	2 3 回忌	昭和61年	4 3 回忌	昭和41年
7 回忌	平成14年	2 7 回忌	昭和57年	4 7 回忌	昭和37年
1 3 回忌	平成 8年	2 3 回忌	昭和51年	5 0 回忌	昭和34年

# 長蓮寺の基礎知識Q & A

## Q：仏様には何をお供えすれば良いのですか（2）

前回は、仏様にお供えする物の5つ（「香」「華」「灯燭」「茶」「供膳」）の中で、最初の「香」をお話ししました。

今回はそれに続き「華」「灯燭」についてお話ししたいと思います。

### 「華」（げ）とは

「華」とは、「お花」のことです。ご承知のように仏壇やお墓へのお供えにはお花は欠かせない物になっております。

では 何故、「お花」をお供えするのでしょうか？それには、こんな理由があるからなのです。

「お花」は、とても綺麗で可憐です。こんなきれいな「お花」を見て、怒ったり、愚痴を言う人はいないでしょう。それどころか、逆に、「お花」は私達の心を穏やかに和ませてくれます。

こんな素晴らしい効果のある「お花」だからこそ、古来より仏様にお供えする様になりました。当然、仏様もたいそうお喜びになるでしょう。

また、このような「お花」の効果は仏様のみならず、私達（お参りする側）にとっても、効果は絶大です。むしろ、こちらの方が重要でしょう。

私達は、日々の暮らしの中で、すぐにカッとなったり、むかついたり、時には、キレたりする事があります。そんな気持ちで、仏様に手を合わせても本当に手を合わせたことになるのでしょうか？

こんな私達を諫めるため、「お花」を供え、その「お花」を眺めながら、お参りすることで、穏やかな気持ちでお参りすることが重要なのです。

このような理由から、お墓でも仏壇でも「お花」を供えるときは、手前に（私達の方に）向け、お供えすることになっております。

ところで、「華」には2種類あるのをご存じでしょうか？

お寺の本堂を見て頂ければ、一目瞭然なのですが、手前に「生花」をお飾りし、奥に「木蓮華」をお飾りしています。



生花と木蓮華

「生花」とは、なまのお花ですね。一方、「木蓮華」は金箔・彩色された木製の蓮です。

「生花」は時と共に枯れてまいります、「木蓮華」は朽ちず綺麗なまま、永久不変です。つまり、「生花」は私達の世界を顕し、「木蓮華」は仏様の世界を顕しています。

日蓮様も「世は皆牢固ならざること水沫泡焰のごとし」と仰せです。

(この世は諸行無常と言う言葉に代表されるように私達の世界はとても流動的であり、これを自覚することが大事。)

最近の御仏壇はコンパクトなタイプが多く、スペース的に「木蓮華」までお飾り出来ない事もあります、もし余裕があれば、是非 この2種類の「華」をお飾り下さい。

## 「灯」(とう) とは

「灯」とは、お灯明(とうみょう)の事です。

通常、燭台にローソクを灯します。これが、お灯明(とうみょう)です。

またまた、問題です。ローソクに火をつけお供えするのは何故でしょう？

ある人は「単にお仏壇の中を明るくするため」、また、ある人はもっと現実的に「お経を読む時の照明」と答えられるかもしれません。

確かに、電気のない時代 ローソクの明かりは照明としての役割を担っていました。でも、それ以外にも理由があるようです。

暗闇の中にいると人は不安になり、一人考え悩んでしまいがちです。真っ暗な状態ほど、悲しく切ないものはありません。そんなときに、ポッと、ローソクの明かりが見えたら、どうでしょう？

どのような小さなローソクの灯りでもほっと、安心するはずです。

ローソクの明かりは、程よく私達を包み込んでくれます。

実は「灯」も「華」と同じように、仏様へのご供養をする。と同時に、私達にも絶大な効果があるのです。

それでは、ローソクの代わりに電球で代用出来ないでしょうか？

電球では、光が強すぎてしまいます。よくTVドラマで刑事が容疑者を取り調べる時に電球を顔に当たりしますが、癒しの効果よりも、刺激となり逆効果ですね。

残念ながら 最近では、日常のお勤めなどの際に、不慮の事故を防ぐため等の理由でローソクを電球式にされる方も見受けられますが、上記の理由で出来ればローソクをお使い頂きたいと思えます。

※ローソクを消すときは、決して口で吹いてはいけません。仏教では、人の息は不浄のもの、けがれたもととされているからです。手のひらをうちわのようにして、風を送って消すか、ロウソク消しや団扇をお使い下さい。

※「ローソクに火をつける時はマッチを使わないといけない」と言う人もありますが、ライターで点燭されても結構です。むしろ安全上ライターでの点燭をお勧めします。



## ◎当山 開創450年記念一納骨堂落慶法要（平成20年4月5日土曜）

開創450年記念事業の当山内墓地の整備と納骨堂の建立では、皆様方に多大なご協力・ご援助をいただき誠にありがとうございます。

皆様の多大な御協力で納骨堂も完成に近づいております。

そこで、来年（平成20年）の4月5日にお披露目の法要をお稚児さんを募集し、盛大に執り行う事になりました。

この法要の詳細に付きましては、後日改めてご案内させて頂く予定です。たくさんのご参詣心よりお待ち申し上げますと共に、御協力の程よろしくお願い申し上げます。



現在の納骨堂の状況

## ◎ 節分会（豆まき） 平成20年2月2日（土）午前11時～

明年も節分会（豆まき）をお日待ちに併せて開催致します。昨年も沢山のご参詣を頂き、盛大に務めさせて頂くことが出来ました。

来年の節分も是非 みなさま、家族お誘い合わせの上お越し下さいたくさんのご参詣を心待ちにしております。

- ・豆まき役は本来、年男・女、厄年の方が対象ですが、当寺では希望者全員に豆をまいていただく予定です。
- ・豆以外にもいろいろ蒔く予定です。（何がまかれるかは当日のお楽しみ！）
- ・抽選会等も計画しております

尚、お札・御祈願を希望される方は、同封致しました別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。

## ◎七日会（お経の練習会）のお知らせ

- 毎月7日午後2時よりお経の練習会をひらいております。参加費無料になっておりますので気軽にお越し下さい。